

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	図書等購入事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	図書館							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	図書係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		4 図書館を充実する									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	8		大	2		中	2	
	根拠法令・個別計画	図書館法、小牧市立図書館選書委員会設置要綱														
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	市民の文化、教養、実用、調査研究のニーズに応え、図書館として適切な図書、雑誌、視聴覚資料等を購入し、市民に必要な情報提供をしていく。														
	内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容 市民の文化、教養、実用、レクリエーション、調査研究等、市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、図書や雑誌、新聞、CDやDVDなどの視聴覚資料等、多種多様な資料を購入している。</p> <p>資料選定にあたっては、(潜在的なものや将来予測されるものを含め)市民の期待とニーズの把握に努め、反映させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書委員会:3回(6/22,11/16,2/22)開催、 ・購入希望(リクエスト):3,584点、 ・予約:97,302点 ・図書購入冊数:21,118冊 ・視聴覚資料購入点数:1,114点 <p>◆24年度直接経費の内訳 消耗品費 45,244千円 備品購入費 4,537千円 選書委員会委員謝礼 92千円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 消耗品費 45,342千円 備品購入費 4,291千円 選書委員会委員謝礼 96千円</p> <p>※23年度直接経費については、図書購入用予算の約50%(27,057千円)を国の「住民生活に光をそそぐ交付金」にて充当(本事業とは別の「住民生活に光をそそぐ事業」で購入)したことにより例年の半額となった。</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	50,057	22,980	49,873	49,729	
		正職員	従事者数	人	2.05	2.05	2.05	2.05
			人件費	千円	10,926	10,926	10,926	10,926
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	60,983	33,906	60,799	60,655	
対前年比		%		55.5	179.3	99.7		
財源	一般財源	千円	60,983	33,906	60,799	60,655		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	年間購入点数	点	目標		—	—	—
実績				21,305	21,208	22,232	
所蔵点数(図書館施設すべて)	点	目標		—	—	—	—
		実績		502,914	521,140	538,099	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			貸出点数(図書館施設すべて)	千点	目標	—	—
			実績	1,140	1,108	1,078	
資料回転率(貸出点数÷所蔵点数)	率	目標		2.43	2.27	2.27	2.00
		実績		2.27	2.13	2.06	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	市民生活の幅広い要望に応え、適切な資料を収集することができた。平成20年7月にえほん図書館が開館した後、21年度をピークに貸出冊数が微減している。	
		事業実施における課題	市民ニーズに応え利用を増やすためには、蔵書の適切な新陳代謝が必要であり、また図書館として必要な資料の収集も必要であるが、現図書館の書庫収蔵能力が限界にきている。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	図書館としての機能が停止し、利用者へ資料提供を行うことができない。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	現代的な問題解決やビジネス支援などの役に立つ資料も充実させ、更なる潜在的ニーズを掘り起こし、新たな利用者の開拓に努める。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	手に入りやすく人気のあるものを揃えるだけでなく、長期的視点から図書館に備えるべき資料収集も継続していく必要があるため。	
		26年度以降の改善案	潜在的なニーズを掘り起こしながら、資料的価値の高いものや、時代の経過とともに歴史的評価が高まる資料を系統立てて収集していく必要がある。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	<p>本事業は、図書館として適切な書籍等を購入し市民に必要な情報提供をするものであり、今後も継続すべき事業である。しかし、ここ数年間、所蔵点数が増加しているにもかかわらず貸出点数は減少傾向である。インターネットの普及や若者を中心とした活字離れが進んでいる影響も大きいと思われるが、減少の原因分析を行い、それに対応した取組みが必要である。</p> <p>選書においては、利用者にとって本当に必要な資料を購入できているか、必要性の低い資料を購入していないか等について改めて検証し、貸出点数や回転率等、事業成果を向上させるよう取り組むとともに、現在、急速に普及が進んでいる電子書籍の導入についても研究していく必要がある。</p> <p>また、来館者数の増加のためには、来館者数の調査やアンケート調査などを基に図書館に行きたいと思わせる環境づくりを進める必要がある。</p>